

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：前佛 和秀

事業の概要

事業名	地域高規格道路 伊那木曾連絡道路 一般国道361号 姥神峠道路（延伸）	事業区分	一般国道	事業主体	長野県
起終点	自：長野県木曾郡木曾町日義宮ノ越 至：長野県木曾郡木曾町日義神谷	延長	3.5 km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>伊那木曾連絡道路は、長野県の中央自動車道・伊那ICと一般国道19号を結び、長野県の伊那地域集積圏と長野県の木曾地域集積圏との連携を強化、広域交流を促進する延長約20kmの地域高規格道路である。姥神峠道路（延伸）は伊那木曾連絡道路の一部を構成しており、地域間の連携と交流促進を図るため、早期に整備を行う必要がある。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>急峻な地形や異常気象により防災課題の多い地域となっており、国道19号の藪原改良含め地域全体での利便性や救急医療サービスの向上を図るため、高速性および安全性の高いダブルネットワークを構築する必要があるため。</p> <p>全体事業費：約130億円      計画交通量：約5,800台/日</p> <p><b>事業概要図</b></p> <p>位置図</p>					

**関係する地方公共団体等の意見**  
地元自治体（伊那市、木曾町）から早期整備の要望を受けている。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
長野県の公共事業評価により、新規事業化が妥当と判断。

**事業採択の前提条件**  
便益が費用を上回っている。  
沿線自治体より早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：98億円 （事業費：97億円 維持管理費：1.0億円）	総便益：115億円 （走行時間短縮便益：92億円 走行費用減少便益：20億円 交通事故減少便益：3.1億円）	基準年 令和2年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.3（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.1（事業費 +10%）	B/C=1.3（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.1（事業期間 +20%）	B/C=1.2（事業期間 -20%）		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	—	注目すべき影響はない	
		事故対策	—	注目すべき影響はない	
	歩行空間	—	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	◎	特に脳外科関連重傷患者の搬送時間短縮に寄与することで医療ネットワークが充実する	
		地域経済	◎	通勤圏が拡大され、地域活性化に寄与する	
		災害	◎	中央自動車道や一般国道19号の代替路としての機能を有し、中京圏から長野県、北陸圏の交通軸のリダンタンシーを強化する 道路線形の改善による交通事故の減少や、災害に対する安全性の向上等により道路としての信頼性が向上する	
環境		—	注目すべき影響はない		
地域社会	◎	地域高規格道路「伊那木曾連絡道路」の整備により、長野県伊那地域と木曾地域を結ぶ広域道路ネットワークが形成され、地域間交流が促進される			
事業実施環境	○	・地元自治体（伊那市、木曾町）より早期整備の要望を受けている。			

採択の理由

事業主体である長野県が実施した評価結果に基づけば、費用便益費が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
伊那地域と木曾地域を結ぶ重要な役割を担う道路であり、中央自動車道や一般国道19号、一般国道153号と一体となって広域的な道路ネットワークを形成する道路となるため。  
また、平成24年度から一時休止となっていたが、伊那・木曾両地域の国道361号の利用状況と、令和2年7月豪雨災害の状況から整備の必要性が認められるため。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。